2/9 おひさまのおはなし会

読書クラブおひさまの皆さんによる紙人形劇や手遊びを行います。▶とき　2月9日(木)午前10時30分～▶ところ　総合福祉センターしいの木▶対　象　幼児

2/18 ゆめっ子のおはなし会

▶とき　2月18日(土)午後1時30分～▶ところ社会教育センター幼児遊戯室▶対　象　小学校低学年、幼児

▶問合せ　いずれも、社会教育センター図書室　☎28・5449

児童書 にっこりおすしとわさびくん

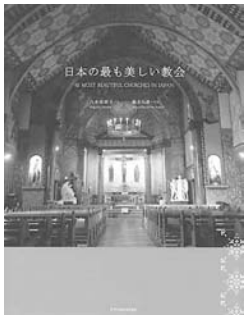
佐川芳枝 著（講談社）

（小学１～２年生向け）

初めて回っていないすし屋にきた桃花ちゃん。わさびがたくさん入った鉄火巻きを食べたら、すしネタたちの声が聞こえるようになって…。まめちしきも掲載。おはなしを楽しみながら、たべものがもっと好きになるシリーズ。

日本の最も美しい教会

八木谷涼子 著（エクスナレッジ）



潜伏キリシタン発見の地となった長崎の教会群から、日本の大工技術が光る木造教会、近代建築の巨匠たちが残した建築遺産まで、61の日本の美しい教会を厳選して紹介する。

さまよえる古道具屋の物語

柴田よしき 著（新潮社）

さかさまの絵本、底のないポケット、持てないバケツ。その古道具屋は、人生の岐路に立った時に現れ、買い主は品物に人生を支配されていく。

豊山俳句クラブ

青山克己 選

この橋のむかうにありし冬の町　田村多喜子

しみじみとありし余生を散る紅葉　坪井昭子

母の忌の母の思ひの寒夜かな　杉浦みどり

毛糸編むゴッホの彩の冬帽子　村上ゆり子

黄落（こうらく）や見上げるほどに降るほどに　小塚美枝

歳晩や誰かが背中を押してくる　石黒貴代子

北風に枝絶へ間なく揺れにけり　杉本衿子

飴色の風を孕（はら）みて銀杏散る　坪井径子

木犀の香に誘われて社まで　安藤春一

目の前でふと見失ふ冬の蝶　青山とも子

白い街冬の日差しに包まれて　水野眞弓

錦秋の大路を風の走るなり　谷崎琴

物売りの声きれぎれに風の冬　高木須磨子

霜の夜や厨に祀る火伏神　岡島齋

戦争といふ荷を下す冬はじめ　青山克己

豊山歌壇

水野笑子 選

川のごと時代の流れは留めどなく　井上とよほ

変へやうの無きもどかしさあり

世の中の移り変はりもよく見えて　木村和子

年取ることも楽しくなりぬ

空つぽの心を満たすアンカーの　櫛田真寿美

甘き語りの深夜便聴く

夕空を真紅に染めて沈みゆく　小出寿枝

西の彼方の残照追へり

健やかな日々の幸せしみじみと　佐藤良子

願ふ八十路の今日このごろを

いつもとは異なる道を歩み行く　柴田満枝

町の変化に驚きにつつ

思ひきり空気を吸ひて見上ぐれば　鈴木久子

眩しい程の空の青さよ

この一年ゆつくり四季の空見るを　鈴木弘香

忘れて家内に籠りて暮れる

カーテンを透かすごとくに煌々と　中澤芳子

雲引き映ゆる十三夜の月

忘れられ隅に置かるるプランター　水谷弘子

夏を生き来て冬に向く芽の

編集後記

一月二十二日、町民討議会議・シンポジウムを開催した。テーマは二つ。本町の魅力・PR方法と、5年間開催してきた町民討議会議の今後について話し合うことだった。町民討議会議の意義と可能性を再確認し、今後も継続していくことを確認する場となった▼討議会議の招待状は毎年二千人の町民にお送りしている。本町の人口は約一万五千人なので、単純計算で八年開催すると全人口に招待状が送付される計算になる。日本における討議会議の第一人者である別府大学の篠藤明徳教授からは、小規模自治体における継続開催は、二十一世紀の世界モデルであるとの発言も頂いた▼世界では、今、ポスト・トゥルースという言葉が拡がっている。客観的事実よりも感情的な訴えかけのほうが世論形成に大きく影響する状況という意味だそうだ。事実を見極めることが容易でなくなっているということかもしれない▼民主主義を多数決決定に短絡化するのではなく、決定プロセスにおける討議こそが重要だという考えに基づく一つの手法が町民討議会議である。町民討議会議を継続開催していくことそのものが、本町の魅力PRにつながっていく。